

収量・品質向上のために！ 適期防除、大型雑草の抜き取り徹底！

I 生育量は平年より小さい

7月の長雨、日照不足により生育量は平年より少なめです。2回目の培土作業が長雨により遅れ、雑草害も所どころで見られます。分枝数、莢付きも平年より少ない状況です。開花期は平年より4~5日早くなっています。

品 種	開花期（平年差）
エンレイ	7月23日（-4日）
里のほほえみ	7月24日（-5日）



II 紫斑病・マメシクイガの防除は適期に確実に！

紫斑病と最重要害虫のマメシクイガは開花25日後頃に同時防除を実施します。この時期がマメシクイガの産卵最盛期です。お盆明けには防除適期に入ってきます。地域によっては、防除計画時期の前倒しで防除を実施してください。

さらに、マメシクイガはこの10日後、平年の孵化期から若齢幼虫期にあたる時期に2回目の防除を行います。いずれも、遅れないように、莢にも確実に薬剤が掛かるよう防除を実施してください。

※ マメシクイガの成虫の動きは活発でなく、あまり遠方には移動しないようです。そのため、連作圃場に土着しやすい特徴があります。

注) 水稻の収穫時期が近付いている時期の薬剤散布です。薬剤が水稻や他の作物に飛散しないよう慎重に防除しましょう。

III ダイズシストセンチュウに注意！

圃場全体は正常に生育しているのに、圃場の一部分で草丈が短く葉が黄化している場合、ダイズシストセンチュウの被害が疑われます。このような圃場がある場合は、被害の拡散を防ぐため、その圃場の全ての作業（今後の雑草抜き取り、収穫作業等）を最後に回しましょう。

IV 大型雑草の抜き取りと畦間雑草の除草徹底!

大型雑草や群生する畦間雑草は汚損粒の発生につながり、コンバインを詰まらせる等のトラブルを誘発しかねません。また、種子がこぼれると来年さらに発生が多くなります。種子ができる前に抜き取るなど、収穫前に雑草対策を徹底しましょう。

注) 今後、群生する畦間雑草に対して除草剤を使用する場合、散布時期は大豆の落葉期以降とし、ラベルをよく読んで使用基準に従って使用するようにしてください。

【抜き取りが必要な大型雑草の例】

イヌホオズキ、アサガオ類なども見つけたら抜き取る!



オオイヌタデ



アメリカセンダングサ

雑草が小さい
今のうち!
種子ができる前の
今のうち!



オオオナモミ



イチビ

V 農作業事故防止啓発運動実施中!

【事故を防止するために】

- ① 危険を予知しよう。
- ② 携帯電話を持ち歩こう。
- ③ 正しい服装で作業しよう。
- ④ 体調に気を付けよう。
- ⑤ 農業機械の使用方法を確認しよう。

どんなに近くでも携帯し、ポケットから飛び出さないような工夫をする。

袖口、ズボンの裾、首に巻いたタオルなどに気を付ける。

無理のない計画で作業し、気分が悪く感じたら周囲に知らせる。

暑い日はできるだけ早朝・夕方に作業するなど、
熱中症予防を心がけましょう!